

専門サービス部会長報告

専門サービス部会と秋田市との意見交換会を、7月29日イヤタカにおいて11名の出席を得て開催いたしました。今回は、秋田市子ども未来部 子ども総務課と子ども育成課をゲストに迎え、「第2次秋田市子ども・子育て未来プラン」の進捗と「第3次秋田市子ども・子育て未来プラン」の概要について情報提供いただいた後、「仕事と子育ての両立支援」について意見交換を行いました。

情報提供内容

【第2次秋田市子ども・子育て未来プランの進捗】

主な成果や取組みは、2011年から待機児童ゼロの継続や秋田市独自の保育料無償化の実施、妊娠期からの相談支援を行う秋田市版ネウボラ(フィンランドの出産・育児支援施設)の設置、秋田市版イクボス宣言プロジェクトや元気な子どものまちづくり企業認定・表彰制度の実施。

【第3次秋田市子ども・子育て未来プランの概要】

基本施策の1つである「多様な保育ニーズへの対応」については、共働き家庭の増加や核家族化の進行などにより、保育ニーズが多様化していることから、延長保育、一時預かり、病児・病後児保育などの多様な保育サービス等の充実に努め、柔軟に対応できる体制を整える。

※詳細は秋田市HPの 市の方針・計画＞子ども未来＞子ども・子育て未来プラン に掲載

意見交換内容 ※主な意見

【情報提供の強化】

秋田市内の保育園の日曜日・祝日の受け入れについて、現在は少ないが空きがある状況である。そのため、空き状況をホームページや市の広報で広く周知していただきたい。その際、施設ごとの土日祝日の受け入れ時間などの詳細まで載せていただきたい。

【休日保育の利用促進】

休日保育の需要と供給のバランス、受け入れる施設があるのに利用者が知らないのか、受け入れる施設の数が少ないのか、保育施設の経営側の問題なのか、解決すべき課題をはっきりさせる必要がある。利用促進するのであれば秋田市が一括で休日保育を受付できるシステムの開発や普段通う施設と違う施設へ預ける不安を解消させるためのカメラ設置に対する補助など、利用を促進する仕組みを検討すべき。

休日保育のニーズが無いように見えるが、休日保育ができないという思い込みがあり、ニーズとして表れていない。

【受入施設に対する支援】

通常の保育園でも休日保育は経営的に苦しいが、利用希望があるため社会的使命感として実施している。この解決策として、日・祝日の保育士の人件費を出してもらうだけで、かなり状況は変わる。新しい施設を増やすより休日保育の受入拡大に効果がある。

【支援施策の拡充など】

秋田市独自で第2子の保育料無償化を先行して実施したこともあり、秋田市が独自に取り組む余地はある。

利用者のニーズに対してサービスを提供するときには、経済合理性を考える必要があり、民間は需要と供給で価格を設定するが、社会性が高い業種については行政の支援が必要になってくる。それぞれの立場で、もう一步踏み込んだ、現実に沿うきめ細かい対応が必要である。

以上が、専門サービス部会からの報告です。